報道関係者各位

第 2 回「コミッション・プロジェクト」4 名のファイナリスト決定！来年新作制作と展示へ

小田香氏、小森はるか氏、永田康祐氏、牧原依里氏

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、日本経済新聞社は、2024 年 2 月 2 日（金）～2 月 18 日（日）の 15 日間（※月曜を除く）、映像とアートの国際フェスティヴァル「恵比寿映像祭 2024」を開催しています。国際的な発信および新しい文化価値の醸成を目的として、恵比寿映像祭 2023 より「コミッション・プロジェクト」がスタートしました。日本を拠点に活動する新進アーティストに制作委嘱した映像作品を、恵比寿映像祭の根源的な問いである「新たな恵比寿映像祭」の成果として発表します（※コミッション・プロジェクトの事業サイクル詳細は別紙 1 参照）。第 1 回の特別賞受賞者である荒木悠氏と金仁淑氏は「恵比寿映像祭 2024」でテーマにあわせた作品を展示しています（※別紙 2 参照）。

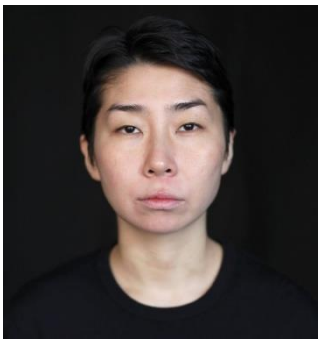
2 月 14 日に、「第 2 回コミッション・プロジェクト」審査会を東京都写真美術館で開催しました。最終選考に残った 8 名のアーティストが作品のコンセプトや完成までのプロセスなどについてプレゼンテーションを行い、5 名の審査員による審査を経て、ファイナリストとして小田香氏、小森はるか氏、永田康祐氏、牧原依里氏の 4 名が選出されました。ファイナリストの 4 名は、今後新作を制作し、「恵比寿映像祭 2025」（会期：2025 年 1 月 31 日～）で発表します。また、「恵比寿映像祭 2025」で展示された新作から特別賞を決定する審査会を会期中に開催し、特別賞に選ばれたアーティストには、「恵比寿映像祭 2026」（2026 年開催予定）で特別展示の機会が提供されます。

【審査コメント】

8 人の作品はいずれも実験的かつ、意欲的な作品ばかりで、議論が白熱し、ファイナリストの選出は困難を極めましたが、ファイナリストとして、①母との対話を通じて創作の可能性に挑戦する小田香氏、②独自の方法で記憶を伝承するドキュメンタリーの在り方を考える小森はるか氏、③食や植民地の歴史からイメージの語りを追求する永田康祐氏、④ダイバーシティの観点から映像の実験的な手法を提示する牧原依里氏の 4 名を選びました。今回は審査の結果、「ダイバーシティ」を包含し、多様な映像制作に挑む作家たちが選出されました。来年度の恵比寿映像祭で、小田香氏、小森はるか氏、永田康祐氏、牧原依里氏の制作委嘱した新作展示を行うとともに、審査会により特別賞を決定します。映像表現の広がりと、新たな展開にどうぞご期待ください。

【ファイナリスト プロフィール】

小田香｜ODA Kaori



1987 年大阪府生まれ。フィルムメーカー／アーティスト。イメージと音を介して「人の記憶のありか」「人間とは何か」を探求する。2013 年、映画監督のタル・ベーラが陣頭指揮する若手映画作家育成プログラムである film.factory（3 年間の映画制作博士課程）に第 1 期生として参加し、2016 年に同プログラムを修了。ボスニアの炭鉱を主題とした第一長編作品『鉱 ARAGANE』（2015 年）が山形国際ドキュメンタリー映画祭・アジア千波万波部門にて特別賞を受賞。その後、多数の映画祭を巡る。2017 年にエッセイ映画『あの優しさへ』が完成。ライプティヒ国際ドキュメンタリー＆アニメーション映画祭ネクスト・マスターズ・コンペティション部門にてワールドプレミア上映。2019 年最新作長編『セノーテ』が完成。山形国際ドキュメンタリー映画祭、ロッテルダム国際映画祭などに招待され各国を巡回。2020 年、第 1 回大島渚賞を受賞。2021 年、『セノーテ』の成果により第 71 回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

小森はるか｜KOMORI Haruka

1989 年静岡県生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。映画美学校フィクションコース初等科修了。東日本大震災後、ボランティアで東北を訪れたことをきっかけに瀬尾夏美（画家・作家）とアートユニットとして活動開始。2012 年、岩手県陸前高田に拠点を移し、人々の語り、暮らし、風景を映像で記録している。2022 年より新潟在住。一般社団法人 NOOK（のおく）に所属。主な作品に《息の跡》（2016）、《空に聞く》（2018）、《二重のまち／交代地のうたを編む》（2019/瀬尾夏美と共同監督）、《ラジオ下神白―あのとき あのまちの音楽から いまここへ》（2023）など。

永田康祐｜NAGATA Kosuke

1990 年愛知県生まれ。神奈川県を拠点に活動。自己と他者、自然と文化、身体と環境といった近代的な思考を支える二項対立、またそこに潜む曖昧さに関心をもち、写真や映像、インスタレーションなどを制作している。近年は、食文化におけるナショナル・アイデンティティの形成や、食事作法における身体技法や権力関係、食料生産における動植物の生の管理といった問題についてビデオエッセイやコース料理形式のパフォーマンスを発表している。主な個展に「イート」（gallery αM、東京、2020 年）、グループ展に「見るは触れる 日本の新進作家 vol. 19」（東京都写真美術館、2022 年）、あいちトリエンナーレ 2019（愛知県美術館）など。

牧原依里｜MAKIHARA Eri

1986 年生まれ。映画作家。東京国際ろう映画祭代表。ろう者の「音楽」をテーマにしたアート・ドキュメンタリー映画《LISTEN リッスン》（2016 年）を雫境（DAKEI）と共同監督し、最新作は《田中家》（2021 年）。既存の映画が聴者による「聴文化」における受容を前提としていることから、ろう者当事者としての視点から問い返す映画表現を実践。

Photo by Hiroshi Ikeda

【第 2 回コミッション・プロジェクト審査委員】
沖啓介（メディア・アーティスト）
斉藤綾子（映画研究者、明治学院大学教授）
レオナルド・バルトロメウス（山口情報芸術センター［YCAM］、Gudskul Ekosistem キュレーター）
メー・アーダードン・インカワニット（映画・メディア研究者、キュレーター、ウェストミンスター大学教授）
田坂 博子（東京都写真美術館学芸員、恵比寿映像祭キュレーター）

別紙 1

恵比寿映像祭「コミッション・プロジェクト」サイクル

① 候補者の選出

［候補者となるアーティストの選出について］東京都写真美術館学芸員の調査・研究、これまでの恵比寿映像祭のネットワークなどから、本プロジェクトで作品制作を委嘱するにふさわしい実績と力量を持つ、日本を拠点に活動するアーティストを取り上げます。前回に引き続き、「東京都写真美術館および審査運営事務局」により候補者となるアーティストを選出します。審査運営事務局：特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ［AIT/ エイト］

［アーティスト選出条件］恵比寿映像祭ならびに東京都写真美術館で蓄積されてきたネットワークを拡張していくことができるアーティストであること。新しい技術や表現方法だけでなく、各ライフステージのなかで多様な挑戦を実現できるアーティストであること。現在日本を居住地として活動を行っているアーティストであること。

② 審査会によるファイナリスト（4 名）決定

［ファイナリスト審査について］映像表現の動向に通じた国内外の有識者からなる審査会により、候補者の中から作品制作委嘱するファイナリスト（4 名）を決定します。

［審査基準］独創性に富み、企画、内容および技法が総合的に優れた映像作品であり、恵比寿映像祭での展示を実現できる計画性を有していること。新しい技術や表現方法だけでなく、映像表現の概念を拡張し、映像史に位置付けていくことが可能な作品であること。作品自体が、海外へ発信していくことができる固有性や接続性を有していること。

③ ファイナリストによる新作制作

ファイナリストとなったアーティストには、制作委嘱をし、新作の未発表作品を制作していただきます。展示、上映、オンラインなど、作品の最終形態については限定しません。

④ ファイナリストによる新作展示

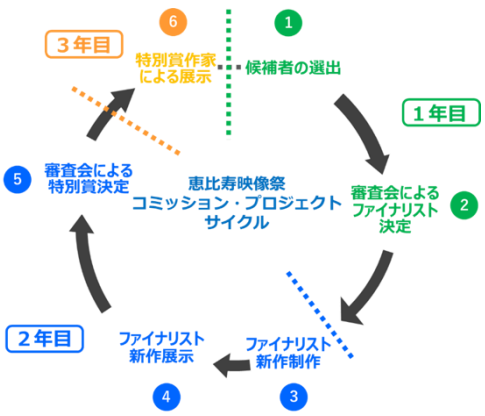
⑤ 審査会による特別賞受賞者（1 名）決定

恵比寿映像祭で展示された新作から特別賞を決定する審査会を会期中に行います。
特別賞に選ばれたアーティストには、翌年の恵比寿映像祭で特別展示の機会を提供します。

⑥ 特別賞受賞アーティストによる翌年の「特別展示」

図：サイクルイメージ

恵比寿映像祭 2024 より、「コミッション・プロジェクト」は、3 年サイクルで実施していきます。ファイナリスト決定までの期間およびアーティストの作品制作期間を十分確保し、前回決定した特別賞アーティストの展示とファイナリストの審査、決定を恵比寿映像祭会期中に実施します。アーティストが飛躍していく様子をご期待ください。



別紙 2

第 1 回特別賞受賞者の特別展示

第 1 回で特別賞を受賞した荒木悠、金仁淑（キム・インスク）による展示。総合テーマ「月へ行く 30 の方法」と連動しています。
会　　期：2024 年 2 月 2 日（金）～3 月 24 日（日）、月曜休館
※「コミッション・プロジェクト」を除く「恵比寿映像祭 2024」は 2 月 18 日まで
時　　間：10:00–18:00（木・金は 20:00 まで）
※入館は閉館の 30 分前まで
会　　場：東京都写真美術館 3F 展示室　料金：入場無料
出品作家：恵比寿映像祭 2023 特別賞受賞アーティスト
荒木悠、金仁淑（キム・インスク）

恵比寿映像祭 2023 特別賞受賞アーティストの
金仁淑（キム・インスク）氏と荒木悠氏（左から）

左：荒木悠《Road Movie》2014 年／15 分 42 秒 ©Yu Araki / Image Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production
右：金仁淑（キム・インスク）《Eye to Eye》2023 年［参考図版］恵比寿映像祭 2023　コミッション・プロジェクト　Photo：新井孝明

恵比寿映像祭 2024 プレスお問い合わせ

※ 報道・媒体関係者様のお問い合わせに限らせていただきます
恵比寿映像祭プレスコンタクト担当（共同ピーアール株式会社）：西室（にしむろ）、田中真衣、田中侑里子
TEL：03-6264-2382　E-mail：yebizo2024-pr@kyodo-pr.co.jp
携帯：080-8072-3133（西室）、080-8866-6183（田中真衣）、080-2332-7919（田中侑里子）

※本リリース内で使用している写真を広報用画像としてご用意しています。
広報用図版申請フォーム：https://tayori.com/f/yebizo2024
より申請をいただくか、①ご所属 ②貴媒体名 ③掲載予定時期 ④ご希望画像の作家・作品名などを記入のうえ、上記のプレス担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

*図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
*図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。
※事業は諸般の事情により変更することがございます。あらかじめご了承ください。
※展覧会等の詳細、最新の情報は恵比寿映像祭ホームページをご確認ください。
恵比寿映像祭ホームページ：https://www.yebizo.com
TEL：03-3280-0099 / FAX：03-3280-0033

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM